パキスタンの子どもたちとの出会い

敬愛大学国際学部国際学科 田嶋美恕

 $(2014/8/6\sim2014/8/16)$



パキスタン支援を行っている NPO 法人 JFSA の職員の方引率のもと、 派遣という形でパキスタンに現地視察に行きました。

JFSA は日本寄付された古着をパキスタンの業者に売り、その収入で学校を 建て、貧しく学校に通えない子供たちに無償で教育の機会を与える 支援を行っています。

今回は、JFSA が支援している学校いくつかとカースト制度で最も貧しいと されている村での視察について報告します。



JFSA が支援している学校の本校 "アルカイールアカデミー" 幼稚園から小学校高学年までクラスが あります。

子供たちは低学年から英語のアルファ ベットの教育を受けていました。教科は 算数、理科、社会(地理)など。他にも、 イスラム教の授業もあります。

子供たちはみんな元気で明るい。カメラが 物珍しく、たくさん集まってきました。み んな握手をねだります。

高学年になると、女の子はスカーフをかぶります。服装は色鮮やかでかわいい"カミズシャノワール"







私も着用。現地では常にパキスタンの衣装で過ごします。 観光客は狙われやすいため、危険回避のため。



←男性はこんな感じ。色は地味で紺・黒・白・水色のみ。

もうひとつの学校 "カチラクンディ校" ごみ処理場の中に建てられて います。

貧しく、ゴミを拾って生活している子どもたちも学校に通って教育を受けています。ただ、環境は決して良くはなく、焼却の際に出る煙や大量に発生しているハエに悩まされています。





パキスタンは気候がとても暑く乾いています。野良犬はごみの溜まった汚い水で水浴びをしていますが、私たちはこの犬には近づけません。犬に噛まれたら病気になり死ぬ可能性があると言われました。

もちろんここに住む人たちもきれいな水は手に入れら れません。

子どもたちはこのように床で学習します。大きな問題 は、彼らが靴を履いて登校しないことです。



この写真の場所はごみの山から拾ってきたものをお金に変える場所です。子どもたちが自分で探してきたごみの重さを図る男性に渡し、男性が重さを読み上げ、レジのようなものの前に座っているもう一人の男性がその重さによって子どもにお金を渡すというような流れでした。





児童労働の現場も見ました。彼は、寄ってくる ハエを払いながら果物の販売をしていました。 ここの子どもたちは本校に比べて笑顔がなか ったという印象でした。みんな目つきが鋭く、 私たちを怪しい者のように見つめていました。





最も低いカーストとされている"ダドゥー村"の子どもたちです。ここの子でもたちもすてきな笑のでいました。牛を買ったの中で村の中で村の中で村の中で村ので共有して生活して結婚しています。女の子は10台で結婚ます。話す言語も違います。



ダドゥー村に向かう途中のレンガ工場(左)と綿花畑(右) ここでの児童労働も深刻な問題です。

子どもたちは学校に通わず親の代わりに牛の水浴びなどの仕事で稼ぎます。

カーストが最も低いため、村に学校を作ることが許されていないのです。また、村の人々は教育の必要性を感じていません。勉強したいと思う子どもたちのために村の人々の理解を得て、学校が設立することを願います。

